

調査名	分析	実施結果 (正答率)	
区 学 力 調 査 全 学 年	・ 4 学年と 6 学年は、4 教科すべてにわたり区 の平均を上回っている。2 学年では、算数で 0.7 ポイント区の平均を下回っているものの、国語 では 1.8 ポイント上回っている。以上のことか ら、クラス替えの影響を受けず、理解力が深ま っている。 ・ 3 学年は、国語で 4.6 ポイント、算数で 2.9 ポイントそれぞれ区の平均を下回った。同学年 は昨年度 (2 学年) も区の平均を下回っていた が、授業に集中して取り組む姿勢が定着しづら いことが影響している。 ・ 5 学年は、算数と理科はほぼ区の平均になっ ている。しかし、国語と社会でそれぞれ 3 ポイ ント区の平均を下回っている。このことから文 章を読み取る力と論理的思考を高める必要が ある。	区	自 校
		1 年	1 年
		国 80.1 算 83.2	国 81.8 算 81.6
		2 年	2 年
		国 86.2 算 87.5	国 88.0 算 86.8
		3 年	3 年
		国 74.8 算 74.4	国 70.2 算 71.5
4 年	4 年		
国 72.4 社 55.0	国 73.3 社 58.5		
算 76.4 理 64.8	算 78.9 理 70.7		
5 年	5 年		
国 70.5 社 59.2	国 67.7 社 56.3		
算 67.0 理 65.8	算 66.8 理 65.6		
6 年	6 年		
国 73.2 社 67.5	国 76.6 社 69.2		
算 68.9 理 63.1	算 72.7 理 65.9		
都 学 力 調 査 小 5	・ すべての教科で都の平均を下回る。 ・ 観点別では、「関心・意欲・態度」が全教科 で下回っているのが、今後の学力の定着のカギ となる。 ・ 国語の読み取る力に関する内容の「解決する 力」と、理科の「知識・理解」の内容では、い ずれも東京都の平均を上回っている。	都	自 校
		5 年	5 年
		国語 73.8	国語 64.8
		社会 72.4	社会 65.5
		算数 62.5	算数 56.1
理科 62.7	理科 58.6		
全 国 学 力 調 査 小 6	・ 国語では、A で都の平均を上回り、B で都の 平均を下回っている。このことから、基本的な 知識は有しているが、活用する力が不足してい ることがわかる。 ・ 算数では、A ではほぼ都の平均と同じである が、B では都の平均をやや上回っている。 A では 80%以上理解できている児童が半数近 くいるが 50%以下の児童も多い。B では 50~ 60%付近に大多数の児童が分布している。	全 国	自 校
		6 年	6 年
		国語 A 72.9	国語 A 74.2
		国語 B 57.8	国語 B 54.2
		算数 A 77.6	算数 A 77.4
算数 B 47.2	算数 B 48.3		

＜平成 29 年度の具体的方策＞

1 日々の授業の充実

- できないことを指摘するのではなく、できること、できたことを認め褒める指導を行う。
- 分かる喜び、伸びる喜び、学ぶ楽しさが実感できるよう指導法を改善するとともに、児童のプラス面を評価しながら学ぶ意欲を高め、学力の向上を図る。
- 学校関係者評価及び児童による授業評価を反映させた授業改善に取り組む。
- 朗読に力を入れ、国語の学習の中で専門家による直接指導を行う。作品を解釈し、場面や心情を想像しながら朗読できる力を育てる。(認定プロフェッサーの活用)

2 学習意欲を高める指導法の工夫

- 電子黒板やT P C、視聴覚教材等を活用した授業展開を工夫する。音声だけでなく、映像を活用することで児童の理解を高める。
- 「体験型学習」「問題解決型の学習」を充実させる。(社会、理科、総合的な学習の時間)
- 読書指導を一層充実させる。朝読書や読み聞かせ、ブックフェスティバル等、読書好きの児童を育てる環境を整備する。読書記録・読書バッチを活用する。
- 「調べる学習」の質を向上させ、調べる学習コンクール等へ作品を出品する。

3 基礎・基本の定着

- 全校漢字計算テストを年3回実施し、全員合格を目指すことで基礎基本の定着を図る。
- デジタル教科書を積極的に活用し、わかりやすい授業展開を工夫する。
- あらかわ寺子屋事業を活用し、基礎・基本の内容を繰り返し学習させ定着させる。

4 「読み解く力」を高めるための指導の工夫

- 学校司書や学校図書館支援室との連携を図り、学校図書館やインターネットを活用して調べ学習を充実させる。
- 一人一人が使えるように配備した国語辞典、漢字辞典を全教科で積極的に活用させる。
- 自分の考えを「図・表」にまとめたり、読み取ったことを朗読して表したりする場を増やす。

5 家庭学習の習慣化

- 家庭学習の時間を確保する。(1年生10分以上、2年生30分、3年生30分以上、4年生40分以上、5年生50分以上、6年生60分以上は必要とする量の家庭学習を日常的に提供する。)